

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「文化を受けつぐ」 ことについて考えよう 教材名「和の文化を受けつぐ」

2 単元の目標

文章と資料を関係付けるために必要な情報を整理し、引用や出典の示し方を理解できる。文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章と資料を関係付けるために必要な情報を整理し、引用や出典の示し方を理解している。(第5・6学年〔知識及び技能〕(2)イ。引用・出典は第3・4学年〔知識及び技能〕(2)イの既習事項)	①「読むこと」において、文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げている。(C(1)ウ・C(1)力)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

文化を受け継ぐことへの書き手の考えを、文章と資料の関係から読む。伝統をそのまま残すことと変えながら続けることを印象だけで論じず、紹介された事例がどの考えを説明しているかを捉える。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)イを、言語活動の中で確かめる。引用や出典の示し方は第3・4学年〔知識及び技能〕(2)イで学んだ事項として確かめ、第5・6学年の情報同士の関係付けに使う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本文の考えと対応する資料の箇所を線で結ぶ。引用・要約・自分の意見を分け、出典を記す。家庭の文化的背景や伝統への親しみの差を評価しない。おおむね満足できる状況は、文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文と資料を見て、受け継ぐことへの初めの考えを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○書き手の考えと事例を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○事例に対応する資料を読み、文章だけの場合との違いを説明する。	思①（発言・学習記録）
	4	○文章と資料を根拠に自分の意見をまとめる。	学習状況を見て支援する。
	5	○意見を交流し、事例や資料への着目の違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見を直し、資料と文章を関係付けた読みを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (3/6)

(1) 本時の目標

文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「文章の考えを確かめるために、資料のどの部分を読むとよいですか。その事例から自分は受け継ぐことをどう考えますか」 【めあて】文化を受け継ぐことへの書き手の考えを、文章と資料の関係から読む。 〈予想される児童の反応〉 ・資料の説明を読むと本文の事例が具体的になる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「文章の考えを確かめるために、資料のどの部分を読むとよいですか。その事例から自分は受け継ぐことをどう考えますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・資料の説明を読むと本文の事例が具体的になる。 ・残す所と変わる所を分けて考えたい。 ・別の事例を読むと自分の考えに条件が加わる。	本文の考えと対応する資料の箇所を線で結ぶ。引用・要約・自分の意見を分け、出典を記す。家庭の文化的背景や伝統への親しみの差を評価しない。 想定する難しさ：資料を飾りとして見る。文化は昔のままだがよいという決めつけになる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章と資料を結び付けて考えを読み、文化を受け継ぐことへの意見を共有して考えを広げている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・別の事例を読むと自分の考えに条件が加わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「文章の考えを確かめるために、資料のどの部分を読むとよいですか。その事例から自分は受け継ぐことをどう考えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

